



松木島八幡社

せんくう かせ
遷宮の風だより 第13報

発行元

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会

令和6年5月1日

第19回式年遷宮につきましては、両日とも雨に降られましたが無事終えることができました。松木島皆様のご協力に感謝申し上げます。

遷宮関係者お礼あいさつ

鈴木省悟：遷宮委員長



まず、松木島の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第19回式年遷宮が雨の中でも盛大に挙行することが出来ました。これは松木島の皆様の心が一つになったからこそ成しえた事だと思っています。誠にありがとうございました。

式年遷宮は20年に一度、松木島にとっての大事業です。松木島が誕生して四百数十年、代々受け継がれている伝統が無事終えられたと言う事で安堵している状態です。また、皆様から多額の御寄附を頂いたから出来る事業や行事です。皆様のおかげを持ちまして予定の事業・行事もほぼ出来ました。重ねてお礼申し上げます。

2日間雨に降られた事は前代未聞の様です。私の心がけの悪さと反省しています。しかし、この雨は「雨降って地固まる」感じがします。遷宮委員会や町内会そして宮総代の結び付きも強くなりました。20年に一度の御遷宮で松木島の心が一つになる、最も大切な行事だと思う様になりました。

木遣り行列は雨の中、大きな声で元気よく出来ました。ただ観客が少なかった事は残念です。餅投げは雨の中、多くの皆様にお集まりいただき盛大に出来ました。

二日目も雨。奉祝行列は中止、稚児行列は会場変更で多くの皆様にご迷惑をお掛けしました。これも私の判断の悪さ遅さと反省しています。

今回の反省を生かし、式年遷宮の伝統は松木島が有る限り続くように祈念しながら、お礼の言葉といたします。本当にありがとうございました。

楢山佐和子：宮司

皆様のおかげをもちまして、20年に1度の式年遷宮を無事に終えることができました。遷宮委員の皆様を始め、松木島の氏子の皆様に厚くお礼を申し上げます。

奉祝の2日間ともに、たくさんのお清めの雨を頂きながらのご奉仕でございました。木遣り行列、奉祝餅投げ、ちりから囃子、神楽奉納などの様子を拝見し、氏子皆様の結束力の強さと、熱意に感動を覚えました。松木島唯一無二のこの素晴らしい伝統を決して絶やすことなく、次の世代へ継ぎ伝えてゆくことの重要性を改めて感じました。

常若（とこわか）に蘇り、より一層高まった八幡の大神さまの大御稜威（おおみいつ）を益々にいただかれまして、町内の発展と氏子皆様の弥栄（いやさか）を心よりお祈り申し上げます。



神谷 勲：遷宮副委員長



御遷宮が無事に終わることができましたのもひとえに皆様方のご協力があったのことに感謝申し上げます。

各委員会の役員はもちろん各委員会がしっかり持ち場を固めてもらい、また、各班においても班長さんを始め各地区の皆様が御遷宮を盛り上げようとしてご協力を頂き、盛況のうちに終わることができました。雨にも関わらず沢山の方々が各行事に参加されていて、お祭りの大切さ・有難さを改めて感じることができました。

八幡社を敬い、心の拠り所としてお守りしていく強い覚悟を感じ取ることもできました。

20年に一度とはいえ、松木島が一つになる大切な御遷宮です。未来永劫御遷宮が引き継がれることを願っています。微力ではありますが御遷宮行事に携われたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

朝岡洋之：町内会長(令和5年度)

この度、松木島八幡社第19回式年遷宮のすべての行事が滞りなく催行されました。これもひとえに氏子並びに関係各位のご理解とご協力の賜物と心より深く感謝申し上げます。



遷宮準備委員会の半年間に及ぶ計画立案ののち、令和4年3月に発足しました「松木島八幡社第19回式年遷宮委員会」におきまして、各委員会のそれぞれの計画が承認され、また皆様より貴重な浄財も賜り、鈴木遷宮委員長のもとその計画実現に向けて各委員会そして各工事関係者が度重なる難問に立ち向かい、一致団結し粉骨砕身努力された結果を各氏子の皆さま及び崇敬者にご披露でき、皆で盛大に奉祝行事が催行できましたことを心より感謝とお礼を申し上げます。

この松木島八幡社の大神様の御神徳により、氏子の皆さまはもとより松木島町内に住む全町民の益々のご健勝と幾久しいご繁栄を祈念して奉祝行事を終えてのお礼のご挨拶いたします。ありがとうございました。

桑山 実：総務委員長



松木島八幡社第19回式年遷宮、皆様大変お疲れさまでした。

総務委員会は、広報や警備、記録映像、また、式典進行などを進めてきました。

この「遷宮の風だより」もあらためて第1報から読み返していただけると違った御遷宮が見えて来ると思います。これから映像記録・記念冊子編集など続きます。皆様のさらなるご協力をお願いします。

思い返せばそもそも御遷宮なるものが今の時代に必要なのか、あるいは、出来るのかという議論から始まったと記憶しています。「どうせ寄附金も集めるの大変だし、若い者はみんな反対している。」という意見の中で、伝統文化を継承しながら松木島独自の叡智を現代に活かして、次世代に託すという立場から鈴木省悟委員長の基、遷宮委員会は動き出しました。

改めて第19回式年遷宮という歴史的瞬間に立ち会えることができたことに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

青木安男：庶務委員長

新しくなった大鳥居の注連縄をくぐると、松木島八幡社の拝殿の擬宝珠が金色に輝いています。庶務委員会は皆様の浄財で神社の装飾品や内装、調度品、幟などを新調したり、修復したりさせていただきました。これらができたのは皆様のご支援ご協力のおかげと心よりお礼申し上げます。



調度品の社名旗や幟旗などを奉祝行列でお披露目する予定でしたが、行列が取りやめになってお披露目できず残念でした。お祭りの時などに八幡社に足を運んでいただき、社殿の中に入って綺麗になった内装や調度品を是非ご覧ください。たくさんの人に見ていただくのが何より嬉しく思います。

新装なった社殿に神様をお迎えする遷宮は、松木島八幡社の立派な社殿を存続し、木遣りや神楽、ちりから囃子などの伝統と文化を継承していく大切な行事であると実感しました。これからも松木島八幡社を皆でお守りしていきたいと存じます。有難うございました。

竹内久善：会計委員長



松木島八幡社第19回式年遷宮予算について、寄附金 70,863,600 円(寄付世帯数 467 町外 3,900,000 円)、玉垣寄進 8,360,000 円(サイズ大 20 本、サイズ中 19 本、サイズ小 79 本)、幟などの物納 1,991,000 円、建設委員収入 314,000 円、玉串料 580,000 円、その他収入 570,000 円などを得ることができました。また、JA西三河一色東部支店のご理解もあり、皆様の負担をなくすため振込み手数料無料化とすることができました。ご協力ありがとうございました。

これらの収入は、総務委員会、庶務委員会、会計委員会、建設委員会、上棟委員会、御遷座委員会との調整を進め予算内で収まるように、妥協することなくしっかりと管理運営してまいりました。

収支決算につきましては、建設委員会と上棟委員会は既に収支が確定し、他の委員会は6月末を目処にまとめたいと考えています。多くの方からの暖かいご支援に対して感謝申し上げます。

鈴木良明：建設委員長

建設委員会は、土塀の解体、本殿の銅板葺き替え工事、拝殿の化粧直し工事、神楽殿外壁修復等、多数の修復工事の予算を提出しました。

各工事は相見積もりを取り、慎重に打ち合わせを重ねて業者を決めてきました。時節柄予算も厳しく、全ての工事を業者任せに出来ないと思い、建設委員会のメンバーに無理を言って、自分たちでできる事は自分たちでする事にしました。その甲斐あって修復工事もスムーズに進み、建設委員会のメンバーにも気運が高まり、奉仕作業にも熱が入ってきました。令和5年の12月を工事期間と定め、事故もなく無事予定の工事は完成いたしました。



そして松木島八幡社第19回式年遷宮を迎えることができました。皆様のご協力誠にありがとうございました。

平井勝美：上棟委員長



御遷宮は雨でしたけれど無事に終わり安心していています。上棟委員や各班の班長さん達に手助けや応援をいただき、上棟祭や餅投げなどが盛大にできました。

特に上棟祭の道具作りや紅白の布巻きが大変でしたけれど多くの人の手助けでできました。また、餅投げでは、各班で必要とする竹切りを3回、3日間に亘り手伝っていただいたり、3ヶ月掛けて俵作りをしていただきました。また、俵の中に入れる檜の葉を小山田の山に取りに行ってもらったりとありがたいことでした。

木遣りにつきましては、委員を集めていただいた各班長さんのおかげで東西2組できて、4ヶ月にも及ぶ練習もしっかりでき、思い出のある木遣り奉納ができました。この2年間は大変でしたけれど、皆様の応援や援助のおかげで御遷宮が盛大に出来たことはありがたいことと思っています。

粕谷教直：御遷座委員長

御遷座委員会の大きな仕事のひとつが仮殿遷座祭や本殿遷座祭を含む6つの祭事の斎行でした。暑い中での遷御のルートでの蝋燭立て製作や白布準備等、振り返ってみると大変な作業でした。祭事は、「型で始まり、型で終わる」伝統的なしきたりに従えばよいのですが、一つひとつの「型」の意味や19回目を迎える長い歴史に想いを馳せながら勤めさせて頂きました。仮殿と本殿遷座祭では神官から威儀物を受け取り、捧げ持つのですが、その重さには驚かれた方もあると思います。お供える「榊」等、様々なものの由来も初めて知りました。



もう一つの仕事が稚児行列です。今回、会場を一か所にしたことで、駐車場確保と一部の道路渋滞が心配され、また、当日はあいにくの天候とはなりましたが、小学校体育館を会場としてお祓い等の神事を、宮司さんを中心に厳かに執り行うことができました。地元のみならず、広く県外からの参加もあり、20年に一回という御遷宮に伴う稚児行列への関心の高さや一人ひとりのお稚児さんへの願い・想いの強さが伝わってきました。お稚児さんの健やかな成長はもちろんのこと、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を改めて祈念申し上げます。



雨の中での餅投げ



かわいい表情のお稚児さん